

リーダーたちの本棚

社会価値と顧客価値を 持続的に提供する

【率いる】
Leading

ブリヂストンは昨年、サステナビリティを経営の中核に据えた中長期事業戦略構想を発表。1931年の創業、1988年の米・ファイアストーン社買収を契機とした第二の創業に続き、2020年を「第三の創業」と位置づけ、「2050年 サステナブルなソリューションカンパニーとして社会価値・顧客価値を持続的に提供している会社へ」というビジョンを掲げた。石橋秀一 Global CEOはこう語る。

「ブリヂストンは、創業者が社是として掲げた『最高の品質で社会に貢献』を不変の使命としています。『最高の品質』は時代のニーズやテクノロジーの進化によって変わります。主力のタイヤの現在で言うと、売って終わりではなく、1次寿命が終了したタイヤの表面を新しく張り替えてリユースするリトレッドタイヤの提案などを行っています」

1本の新品タイヤを2度張り替えた場合、新品を3本使う場合と比べ、原材料やCO₂排出量をほぼ半減できるという。

「こうした社会価値と、安全性や経済性といったお客様にとっての価値の両立を目指しています。また『社会に貢献』の形も時代とともに変わります。創業者の石橋正二郎は、寄付活動などを積極的に行いました。私はたまたま名字も出身地も創業者と同じですが、地元福岡には創業者の寄付で建てられた施設や美術館が各所にあり、それらを見て育ちました。創業から90年の間にグローバル化が進んだ現在の当社は、業界のリーダーとして未来に対する責任を果たしていくための行動指針「Our Way to Serve」を国内外のグループで共有し、Mobility(モビリティの進化に貢献する)、People(一人ひとりの生活と地域社会を支える)、Environment(環境負荷を低減し、より良い環境を残す)という3領域を柱に、SDGsを始めとする社会課題に取り組んでいます」

ソリューション事業を成長軌道に

具体的な取り組みとしては、高付加価値のタイヤ製品などの開発・提供によるコア事業の強化、さらに、タイヤデータやモビリティの運行データなどを活用して新しい価値を創造するソリューション事業の強化を進めている。

「ソリューション事業をグローバルで成長軌道に乗せ、さらに戦略的投資も行っています。拡大が見込まれるリサイクル事業の他、新しい技術では人工筋肉の開発などにもチャレンジしています。ゴムチューブを用いた人工筋肉は、産業用・家庭用ロボットへの展開が期待されています」

グローバル企業のリーダーを務めるうえで糧になっている職務経験について尋ねると、主に二つあると言う。

「一つは新入社員時代。勤務地は広島でした。自主的に販売会社やガソリンスタンドの仕事を手伝い、課題を見つけて現場や上司に伝え、時には商品戦略の担当者に厳しい指摘をしました。それで『そんなら言うなら本家でやれ』ということになって(笑)。もう一つは、買収先のファイアストーン社の赤字やリコール問題の解決に奔走した駐米経験。修羅場を耐え抜いた経験が大きな糧になっています」



ブリヂストン
取締役 代表執行役
Global CEO

いしばししゅういち
石橋秀一 さん

1954年福岡県生まれ、77年静岡大学文学部卒。同年ブリヂストン入社。89年から約14年間、同社傘下の米・ファイアストーン社に勤務し、役員を歴任。2003年に帰国、執行役員、副社長などを経て20年3月から現職

石橋秀一さんのおすすめ本棚

「哲学と宗教全史」
(ダイヤモンド社) 出口治明・著

世界1200都市を訪れ、1万冊を読破したAPU(立命館アジア太平洋大学)学長が、古代ギリシャから現代まで、100人以上の哲学者・宗教家を語る。

「スパイス、爆薬、医薬品」
「世界史を変えた17の化学物質」
(中央公論新社) ベニー・ルウターノ/著
ジェイ・パルゼン/著 小林カ・訳

砂糖、綿、抗腐剤、ゴム、ニコチン、PCBなど身近な物質の化学的な働きが社会の発展に与えた影響を、エピソードや構造式を交えてわかりやすく解説。

「持続可能な未来へ」
(日本経済新聞出版社) ビーター・セグ/著
ブライアン・スミス/ニコラ・クラウツウィツ/著
ジョー・ロー/サラ・シュリー/著 有賀ゆづり・訳

持続可能な未来へ向けた改革は経済的価値があるのか、なぜ企業が取り組まなければならないのか、世界の組織と個人に求められる変革を解説する。

「ニュータイプの時代—新時代を生き抜く24の思考・行動様式」
(ダイヤモンド社) 山口周・著

「正解を出す力」にもはや価値はない。直感/意味/構想/モビリティ/アンラウン/エグジット……。著者が明かす「アート」「美意識」に続く41-コンセプト。

「心。」
(サンマーク出版) 相盛和夫・著

すべては“心”に始まり、“心”に終わる。当代第一の経営者がたどりついた、究極の地平。ミリオネラー「生き方」の秘蔵が15年の時を経て刊行。

シニビルはプロテスタント信者の入植地、いわゆるバイブル・ベルトのど真ん中で、文化背景が日本と大きく異なり、考え方も違い、現地社員と衝突することも。アメリカ生活が長く中でサミュエル・ハンチントン『文明の衝突』が出版され、これに多くを学びました。文明論の興味は今日まで尽きず、ジャレド・ダイアモンドの『銃・病原菌・鉄』に目を開かされたり、最近ではユヴァル・ノア・ハラリの著書を読み耽ったり。また世界を知るほど日本の歴史の表裏を知りたくなり、司馬遼太郎、山本七平、網野善彦などの著書に耽っていきました。日本と密接なアジアについては、『全東洋街道』など藤原新也氏の著書群や、田村隆一の『インド酔歩行』を読んで興味を募らせた。その他、趣味の絵画や器、建築や演劇の関連本も入ると好きな著者や書籍は数えきれません。

心に残った本を挙げると、まず、出口治明氏の『哲学と宗教全史』。古今東西の哲学者や宗教家の思索の足跡をたどり、時代背景を含めて分かりやすく俯瞰しています。同氏の『人類5000年史』シリーズと併せて面白く読みました。

「スパイス、爆薬、医薬品」世界史を変えた17の化学物質は、化学物質が文明を押し上げたという視点で様々な歴史のエピソードに迫っています。当社は

「小説伊勢物語業平」これも面白いです。とにかく読書が好きなので、我が家は本だらけ。整理しなさいとしよっちゅう妻とバトルです(笑)。(談)

文明の類似や差異を アメリカで実感し、学んだ

小学生の頃から本の虫で、誕生日のプレゼントは本が図書券を親にお願いでしていただきました。ドリトル先生や『ファーブル昆虫記』などの定番シリーズは図書館で借り、小遣いは古本購入にあてました。小学4年時には宮沢賢治の作品をほぼ網羅。好きな人の著作を片っ端から読む癖はこの頃からで、青年期は小田実や五木寛之氏などの著作に親しみました。アメリカに滞在していた90年代は、ネイティブ・アメリカンの教えを記したカルロス・カスタネダの著作や、それに関する真木悠介氏の論考に出会い、ネイティブ・アメリカンのシャーマニズムと日本の自然信仰の類似を知りました。一方で、駐在地のナツ

治の作品をほぼ網羅。好きな人の著作を片っ端から読む癖はこの頃からで、青年期は小田実や五木寛之氏などの著作に親しみました。アメリカに滞在していた90年代は、ネイティブ・アメリカンの教えを記したカルロス・カスタネダの著作や、それに関する真木悠介氏の論考に出会い、ネイティブ・アメリカンのシャーマニズムと日本の自然信仰の類似を知りました。一方で、駐在地のナツ

また世界を知るほど日本の歴史の表裏を知りたくなり、司馬遼太郎、山本七平、網野善彦などの著書に耽っていきました。日本と密接なアジアについては、『全東洋街道』など藤原新也氏の著書群や、田村隆一の『インド酔歩行』を読んで興味を募らせた。その他、趣味の絵画や器、建築や演劇の関連本も入ると好きな著者や書籍は数えきれません。

資本主義の再構築 カギは課題の発見と「利他」

当社はサステナビリティを経営の中核に据え、資源循環やCO₂排出削減などに取り組んでいます。「環境宣言」として発信したのはSDGsが因縁で採択される5年前の2010年。当時担当役員になりたてだった私は、環境に関する本を何十冊と読みました。その一冊「持続可能な未来へ」は、経営観の基軸となりました。著者代表のピーター・センゲは学者ですが、その言説は環境課題の提示のみならず、いかに組織内の意識を高め、価値創造につなげるかという組織論に及んでいます。私はこれまで、ドラルッカー、コトラー、ポーター、レビット、日本人では大前研一氏の著書などに学び、最近では「SDGs志向のビジネスは多大な利益をもたらす」と唱えるレベッカ・ハンター・ソンの

「資本主義の再構築」に学びました。こうした流れの中でマイルストーンとなったのが本書でした。

心の書をサステナブル経営の指針に

【読む】
Reading

この3月1日に創業90年を迎えたブリヂストン。環境・社会・経済におけるサステナビリティ(持続可能性)を経営の中核に据え、タイヤ事業の強みを生かした独自のビジネスモデルの構築を進めている。グローバルCEOの石橋秀一さんが、その多彩な読書歴や、心に残る書について語ってくれた。



近年読めて読んでいるのが山口周氏の著書です。「論理や理性に軸足を置いた経営では勝てない。直感や感性や美意識を磨け」と山口氏は説きます。当社の創業者はブリヂストン美術館(現・アートイゾン美術館)を建てると、アートとビジネスの両立を実践しました。私もアート鑑賞が趣味ですし、論理重視のグローバルビジネスにこそパッションや共感を呼ぶ美意識が不可欠と考えてきました。山口氏は「ニュータイプの時代—新時代を生き抜く24の思考・行動様式」で、問題の解決能力より、問題を発見・提起する能力が問われているとも書いています。当社は変化に応じて課題を発見し、事業を構想する組織づくりに注力しています。ですから非常に納得できる内容でした。